

「法人の新型コロナウイルス対策におけるチェックリストの活用」

安全衛生委員会 委員長 宮原 義行

新型コロナウイルス対応状況チェックリスト(日中活動事業所用)

このチェックリストは、感染に際する新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するための基本的な対策の実施状況と、対策が採れない場合は速やかな対応を促す目的として作成されています。
 ※今後季節の推移に伴って対応策が変更される場合があります。1日1回1回の検査でチェックリストへの記入を義務付けさせていただきます。チェック欄に記入し、項目毎にチェック印(✓)を記入してください。
 ※チェックリストへ記入する際は、事業所内職員全員に同意を取り付け、全体を確認した上で記入をお願いします。
 ※本欄に記入するよう記載がなければ、必要に応じて安全衛生委員会より実施していただきます。

事業所名: _____ 提出日: _____ 検査者: _____

項目	チェック欄	1	2	3	4	5
1. 感染防止のための基本的な対策(職員・利用者 共通)	<ul style="list-style-type: none"> ・換気設備で換気を行うことについて、定期的に確認しているか。 ・来場時に、手、目の消毒を実施している。 ・食事の前後など手洗いの頻度は、マニュアルに沿って実施している。 ・来場後、マスクの着用を実施している。 ・換気設備の稼働状況や注意点について利用者や職員と共有している。 ・その他: 					
2. 事業所内の整理(職員・利用者 共通)	<ul style="list-style-type: none"> ・来場の際、全身に埃等の付着を防止している。 ・来場時、衣類の整理を促している。 ・来場時、衣類の整理を促している。 ・十分な換気や消毒を促している。 ・57℃以上の熱湯での消毒があることについて、済みを確認している。 ・その他: 					
3. 事業所内の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・1日1回の換気を実施している。(30分以上1回以上換気) ・不特定多数が利用する場所については、毎日消毒を行っている。 ・事業所内食・飲み物の提供については、密閉・密着・密接を回避している。 ・来場者に対しては、換気などの対応や消毒、手洗いの実施を行っている。 ・マスク、消毒液、ハンドソープ等、必要物資を備蓄している。 ・手洗いや消毒に関する啓発ポスターを掲示している。 ・その他: 					
4. 法人からの実施内容(対応マニュアルについてその対応策が周知している)	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者等が出入り関係の対応について、理解している。 ・利用者の法人名やサービスの内容を把握している。 					

※1か月毎に提出してください。
 ※部門長決裁後、原本は各事業所で保管し、コピーを安全衛生委員会に提出してください。

新型コロナウイルスへの対策は、今後も長期化が予想され、日々の現場における感染拡大防止対策や新たな生活様式の取り組みが重要になります。法人内事業所においても毎日多くの方が通所される中、「事業所内の日常的な消毒」「1日数回の換気」「3密を避ける」などの対策を毎日実施しています。

その様な中、法人から「新型コロナウイルス感染症に係る予防・対応マニュアル」(第7版)が利用者・職員に周知され、今後もマニュアルに沿った対応が求められます。

安全衛生委員会でも日々の感染症対策については、職員の意識が最も大切であると捉え、6月より「新型コロナウイルス対応状況チェックリスト」の取り組みを始めました。このチェックリストは、「日中活動事業所用」と「グループホーム用」の2種類を用意し、「マスクの着用を実施しているか」「検温を実施しているか」「建物内の消毒を行っているか」など、日々の感染拡大防止対策が確実に実行されているかを1週間に1度全職員で確認しています。また、有効的な対策や困難な事があった場合は各事業所から発信し、法人内で情報の共有を行いながら必要に応じて各事業所で取り入れるなどの対応を行っています。今後も、日々行っている感染拡大防止対策が緩む事が無い様、チェックリストを活用して職員の意識を高めていきたいと思っております。

広報 すずらん

発行日: 2021年1月1日 (1996年創刊)
 発行元: 社会福祉法人すずらんの会 理事長 松屋 直人 URL: <http://www.suzuran.or.jp>
 所在地: 〒252-0328 神奈川県相模原市南区麻溝台7-6-4 TEL: 042-745-8080
 編集: 広報委員会



年頭のごあいさつ

明けましておめでとうございます。旧年中は皆様方から多大なご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年12月に法人設立30周年を迎え、今年からの新たな10年に向けてその第一歩を踏み出しました。常に新たなすずらんの会を目指して活動して参りたいと思っておりますので、皆様のご支援とご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

さて、昨年2月頃から、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大がありました。幸いなことに、マスク着用・手指の消毒や密の排除等の対策に真面目に取り組んだ結果だと思われませんが、我が国では、欧米諸国と比較して、感染がかなり抑制されているようです。昨年の11月から、気温や湿度の関係からか、第3波が到来しましたが、これが沈静化し、ワクチンの接種が可能となり、夏季オリンピック・パラリンピックが、通常通り開催され、普通の生活に戻るようになることを、切に願っています。

新型コロナウイルスには、感染拡大防止マニュアルを制定し、これを国の指針等に従い必要な改定をしながら対応して参りました。発熱等があった場合には、ご家族・関係機関の協力を仰ぎながら、PCR検査による感染確認をお願いして来ましたが、幸

理事長 松屋 直人

いにして感染者の報告はなく(11月20日現在)、これも利用者の皆様及び職員の努力とご協力の賜物と、深く感謝申し上げます。ただ、利用者の皆様には、余暇活動や公共交通機関を用いた活動の自粛、ご家庭での検温等の体調管理の実施、事業所内での手指の消毒やマスク着用など、ご不便をお掛けしていますこと、お詫び申し上げます。

また、最近になってかなり改善されましたが、手指の消毒液やマスク等の入手が困難となった時期があり、高額且つ品質が今一のものも購入せざるを得ませんでした。関係企業・利用者のご家族・国をはじめとする行政等からご支援を頂き、大変心強く感じましたし、ホッとしたことを今でも覚えております。

この様な状況下でも、すべきことは疎かにすることができませんので、高齢化対応・人材確保・一部事業所の収支健全化等の課題の解消と、現状サービスの質の向上に、皆様のご協力を仰ぎながら、職員ともどもこれからも日々努力して参りたいと思っております。

最後になりましたが、皆様方の今年一年のご活躍とご多幸をお祈り申し上げます。

ご寄付に感謝申し上げます。

大協技研工業株式会社 様
 すずらんの会父母会 様

複数の企業・団体から大変ありがとうございましたご寄付を頂戴しました。ご理解と温かいご支援を賜り、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

編集後記

法人設立30周年という節目の年をコロナ禍で迎えることとなりました。どのような状況に置かれても、利用者の皆さんに最善のサービスを提供する、その為に日々模索しながら、成長していければと思います。(広報委員会)

社会福祉法人すずらんの会は2020年12月で法人設立30周年を迎えました。今号では、設立30周年を迎え就労支援部門、日中活動支援部門、地域支援部門の部門長から各部門の現状と今後の展望について特集します。



就労支援部門

部門長 矢嶋 正貴

就労支援部門は、法人内のワークショップ・フレンド、ワークショップ・SUN横山、ワークショップ・SUN、すずらんの家、ワークセンターやまと、大和市障害者自立支援センター(就労移行支援事業)の6事業所で、それぞれの事業所では、就労移行支援、就労継続支援B型、就労定着支援等の各事業が実施されています。就労支援は、法人設立からの取り組みの重要な位置づけの1つであり、「大人になったら働く」ことを実現し、「働くことを通じた支援」により企業就労への輩出や高工賃の支給を実践してきています。しかしながら、2020年度上期は就労支援にとっても、新型コロナウイルスの影響を大きく受けました。具体的には、(中面へつづく)



ワークショップ・フレンド 治具を使った授産作業の様子



日中活動支援部門

部門長 池田 宏子

日中活動支援部門は、未就学児から高校卒業までの療育を長期的に実施している発達支援グループのばれっと、ばれっとやまと、18才以上の方への福祉的就労の場と活動場所を提供しているグリーンハウス（就労継続支援B型、生活介護）、タートル、フィルイン（生活介護）で構成されています。

発達支援グループでは、言語・心理の専門職による療育を地域の関係機関と連携しながら実施しており、現在2事業所で300名強のお子さんたちに通っていただいています。お子さんたちの将来を見据えながら質の高い療育を維持し、どの子にも、「自分はこれでOK!」と思える楽しい毎日が待っているよう、これからも皆さんの楽しい毎日に『伴走』していきたいと思えます。



ばれっと 療育の様子

グリーンハウス、タートル、フィルインは「自分に合った仕事を通して生活の力をつけていく」事業所としてスタートしました。グリーンハウスは多種多様な作業を通して高工賃を目指しながら、適性に合った経験が積めるようになっています。また、働くことを通じて企業就労の目標にも時間をかけていく事で、毎年1~2名の就労者を輩出しています。

生活介護事業は作業以外にもそれぞれ特徴的であり、タートルでは外部講師によるエアロビクス体操や音楽療法を取り入れて、楽しく活動するだけでなく集団行動の中で社会的ルールを学ぶ場としています。フィルインは地域の方と関わる機会を多く持ち、高齢者施設にボランティアに出向く活動も長年続けています。



グリーンハウス 除草作業の様子

今年度は各事業ともに新型コロナウイルスの影響により利用者、家族、職員ともに不安を強く感じる年となりました。その中で、事業所として利用者、家族と共に協力し感染対策を講じながら今後も各事業の強みとしている特色あるサービスを提供していきたいと思えます。また、成人の事業所では開所当時の利用者も多く、月日の流れの中で様々な変化を感じています。現在も高齢化により、介護保険のデイサービスを併用している方もいます。日中活動の場として職員一人ひとりがご本人の変化に気づき、事業所としてできる事（食事の提供の仕方、身体機能を維持するための体操を取り入れる等）と、適切なサービスとの連携を図ることが今後はより一層必要になってくると思えます。



フィルイン ボランティア講師を招いて体操を行う様子



地域支援部門

部門長 佐藤 倫孝

地域支援部門は、ホームすずらん（グループホーム）、あいあいS（居宅介護サービス等）、相談支援（相談支援センターすずらん、大和市障害者自立支援センター・相談支援事業）で構成されており、法人理念の根幹である「地域の中での生活」を支えるためのサービスを提供しています。

ホームすずらんは10ヶ所のグループホームを運営しており、一人ひとりの状況に応じた自立生活の伴走者として支援を提供しています。それぞれのニーズや課題に取り組みながらホッと安心できる生活の場の提供に努めています。



ホーム行事の食事会の様子（2019年）

あいあいSでは、外出支援やヘルパー派遣、介護保険事業等、在宅での生活を支えるための支援を提供するとともに、介護保険事業での経験やスキルを活かし、法人利用者の障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行や、介護予防の観点からの法人事業所への助言等を行い、利用者個々の年齢や健康状態に応じた支援を提供しています。相談支援では、計画相談支援と相模原市・大和市委託相談の受託を通して障害福祉サービスの利用調整や日常生活上の困りごとや課題解決のための支援を相談支援というツールを用いて支援しています。

地域支援部門でも、新型コロナウイルスによる利用者皆さんへの影響を大きく感じた1年となりました。就労先や通所先の休業や新型コロナウイルス感染拡大による外出制限、就労先や利用事業所の感染予防のための取り組み等、利用者の皆さんにとっては、これまでと違う様式での生活や緊張を強いられた生活が続いています。まだまだ制限が多くこれまでのような活動は行えませんが、地域支援部門としては、感染予防に努めながら様々な工夫を取り入れ、生活の中で「楽しい」「良かった」と思ってもらえるようなサービスを提供していきたいと考えています。

（表面から）
施設外就労先の一部撤退、受注作業量や自主製品販売機会の減少、企業就労に向けた活動の制約や自粛、定着支援の企業訪問制限等です。

その結果、企業就労者数は年間目標46名（就労相談含む）のところ15名、利用者平均工賃では前年度比56%にとどまった事業所もありました。

緊急事態宣言下では、在宅支援による利用をされた方もいらっしゃいましたが、多くの利用者は通常通りのサービス利用を継続し、企業就労の活動や任せられた作業に従事してくれました。そのひたむきさには私たち職員も頭が下がります。そうした利用者の皆さんへの支援が滞らないよう、衛生管理をしながら私たち職員も就業の場の維持確保に力を注いだ、というのがこれまでになかったことです。

当面、新型コロナウイルスによる就労支援への影響がなくなることはないと思われれます。それでも、今後も地域の方々や企業の皆様からのご理解、ご協力も得ながら、法人の重要なミッションである利用者のための“就労支援”をより充実させ、職員はさらに知恵を出し合い工夫をしながら、それぞれの事業所の役割を果たしていきたいと思えます。



すずらんの家 自主製品製造の場面